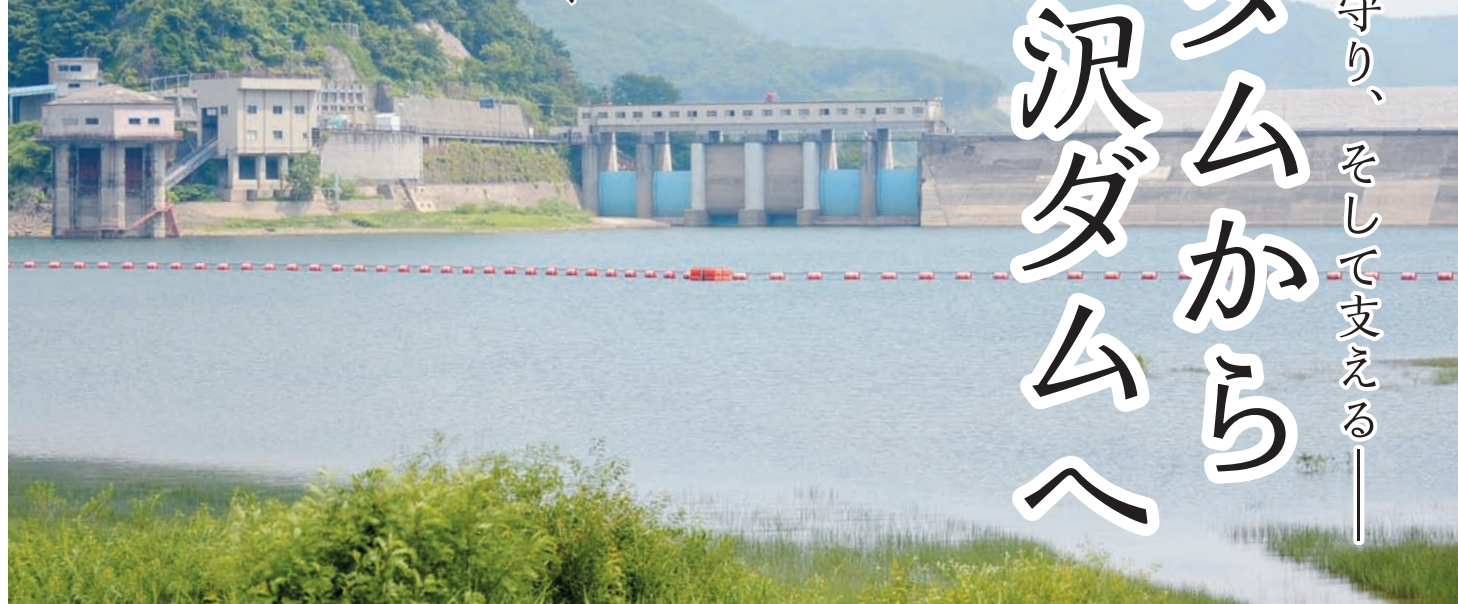


地域の暮らしを守り、そして支える――

# 石淵ダムから 胆沢ダムへ

石淵ダムは、昭和28年に完成して以来、59年にわたり農業用水の供給や災害防止の役割など、地域に大きく貢献してきました。その石淵ダムは、ことし10月に治水や利水の機能を胆沢ダムに引き継ぎ、胆沢ダムの試験湛水が12月3日に開始されました。平成25年度に完成する胆沢ダムは、その役割をさらに増して、ますます地域の暮らしを豊かにすることが期待されます。

■問い合わせ〓胆沢ダム振興室（胆沢総合支所内線220・221）



役目を終えようとしている石淵ダム（撮影：7月28日）

■表1 胆沢ダムと石淵ダムの比較表

|      |                         | 胆沢ダム          | 石淵ダム          | 比較    |
|------|-------------------------|---------------|---------------|-------|
| ダム諸元 | 型式                      | 中央コア型ロックフィルダム | 表面遮水型ロックフィルダム | ―     |
|      | 堤頂標高（m）                 | 364           | 323           | ―     |
|      | 堤高（m）                   | 132           | 53            | 2.5倍  |
|      | 堤頂長（m）                  | 723           | 345           | 2.1倍  |
|      | 堤体積（m <sup>3</sup> ）    | 13,500,000    | 442,500       | 30.0倍 |
| 貯水諸元 | 湛水面積（km <sup>2</sup> ）  | 4.4           | 1.1           | 4.0倍  |
|      | 総貯水容量（m <sup>3</sup> ）  | 143,000,000   | 16,150,000    | 9.0倍  |
|      | 有効貯水容量（m <sup>3</sup> ） | 132,000,000   | 11,960,000    | 11.0倍 |
|      | 洪水調節容量（m <sup>3</sup> ） | 51,000,000    | 5,600,000     | 9.0倍  |
|      | 利水容量（m <sup>3</sup> ）   | 81,000,000    | 6,360,000     | 13.0倍 |



石淵ダム・胆沢ダムの主な出来事

|              |                           |
|--------------|---------------------------|
| 昭和21年9月      | 石淵堰堤建設事務所開設<br>(石淵ダム建設着手) |
| 25年11月       | 石淵堰堤定礎式                   |
| 28年6月<br>12月 | 石淵堰堤竣工式<br>貯水開始           |
| 34年9月        | 台風15号による洪水                |
| 47年9月        | 台風20号による洪水                |
| 48年          | 渇水により利水容量激減(7・8月)         |
| 53年          | 渇水により利水容量激減(7・8月)         |
| 54年10月       | 台風20号による洪水                |
| 56年8月        | 台風15号による洪水                |
| 57年9月        | 台風18号による洪水                |
| 61年6月        | 直下型地震発生(震度5)              |
| 62年8月        | 前線による洪水                   |
| 63年          | 集中豪雨による大洪水<br>胆沢ダム工事事務所開設 |
| 平成元年8月       | 台風17号による洪水                |
| 2年9月         | 台風19号による洪水                |
| 5年           | 胆沢ダム工事開始                  |
| 6年           | 渇水により利水容量激減(7月～9月)        |
| 15年          | 石淵ダム竣工50周年                |
| 19年9月        | 台風9号による洪水                 |
| 20年6月        | 岩手・宮城内陸地震(震度6強)           |
| 23年3月        | 東日本大震災(震度5強)              |
| 24年10月       | 石淵ダム・胆沢ダム引継式              |
| 24年12月       | 胆沢ダム試験湛水開始                |

# 役割が増える

その役割はさらに大きく

石淵ダムは国内で初めて計画されたロックフィルダムでした。その役割を受け継ぐ胆沢ダムは、堤体の規模が国内最大級のロックフィルダムとなります。石淵ダムと比較すると、その規模の大きさが分かります(表1および図1参照)。

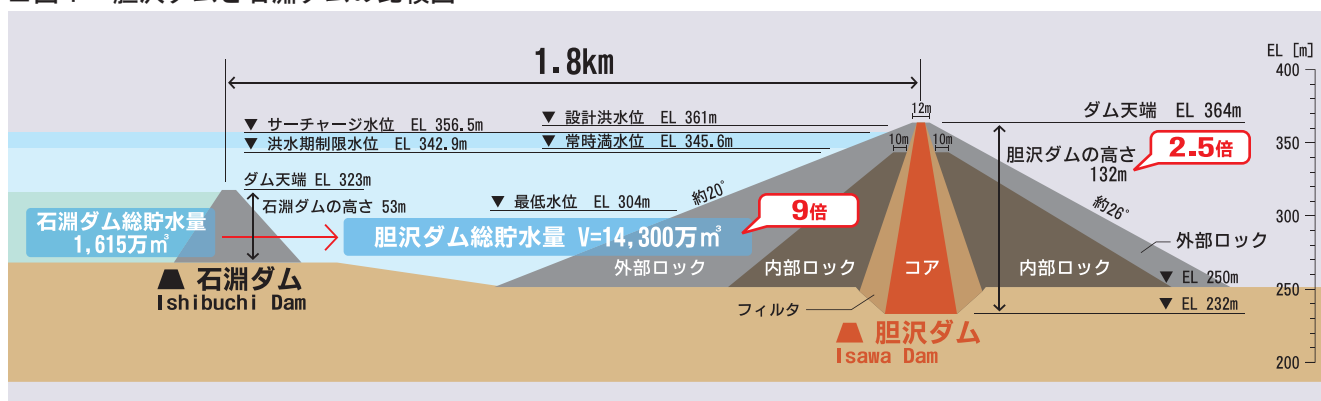
治水の機能やかんがい用水の規模、発電量などにおいて今まで以上に容量が増し、より安定した生活基盤を提供してくれそうです。

## 新たな役割も担う

胆沢ダムは、石淵ダムが有していない水道用水の供給や流域河川の自然環境保全などの新たな役割を担うこととなります。地域に対する貢献度が大幅に高まります。

石淵ダムでは解決できなかった夏の場の水不足などの課題も解消され、皆さんが安心して快適に暮らせる地域を築くことが可能となります。

■図1 胆沢ダムと石淵ダムの比較図



わたしたちの暮らしはダムにより支えられています(見分森展望台からの風景)

